

館長挨拶

この「ミュージアムだより」は、1993年の初刊以来国際平和の広報誌として、広く戦争と平和、民主主義の問題を社会に問いかけ、ミュージアムの展示を中核とした平和教育・研究・普及活動などの事業を社会に広報する役割を担ってきました。インターネットによる情報伝達のさらなる発達とソーシャルネットワークの普及という社会状況の中で、その役割の明確化と他の情報伝達手段との棲み分けが必要になり、このたびそのフォーマットを変え、装いを刷新しました。コンパクト化はしましたが、ターゲットを絞った上で内容を精査し、紙媒体のメリットを生かした広報誌にしたいと思っていますので、どうか引き続きご覧くださいませようお願いします。

当ミュージアムは世界で最初の大学立の平和ミュージアムなのですが、社会とのつながりの中から生まれたとも言ってもよく、いわば市民社会、特に平和問題を考える市民・国民との連携の上に出来上がっています。大学の組織の一部でありながら、キャンパスから数十メートル離れたところに位置しているのは象徴的でもあります。それは金閣寺と龍安寺のほぼ中間点に位置することもあって、多くの内外の観光客が歩いて通る地点でもあり、当ミュージアムは大学の、京都市の、日本のものだけでなく、大げさにいうならば世界の共有財産でもあります。だてに「国際」という名を冠しているだけでなく、同じ方向性を持つ世界の多くの平和ミュージアムと連携しており、来年（2020年）の9月にはその世界大会が当ミュージアムをメイン会場として行われます。全学を挙げてその準備に入ったところです。

準備と言えば、3年先の2022年に当ミュージアムは開館30周年を迎えますが、それに合わせリニューアルオープンのための準備が進行中です。2005年の一回目のリニューアルからすでに15年ほどたち、色々な形で大幅な改定が必要とされてきているからです。世界情勢も変わってきていますので、展示物と展示方法の適切な変更が必要だけでなく、前回のリニューアルの時に残されていた課題も今回改善されなくてはなりません。また、今迄の経験の中からミュージアム自体の利用方法、特別展の意義の再確認、外国語対応など様々な問題点が浮かび上がっています。これらを考慮に入れ、かつ建造物の宿命としての老朽化に対応する必要性から建物自体の内部構造も含め、大々的なリニューアルが望まれているのです。そのために、これこそ全学を挙げての準備に入っています。2021年度はそのために一年間の休館を余儀なくされる予定ですが、それ



立命館大学国際平和ミュージアム館長

吾郷 眞一

(立命館大学衣笠総合研究機構教授)

を逆にチャンスとしてとらえ、別のキャンパスでの部分展示や、ITを利用した情報発信も検討されています。ただ、リニューアル後も全体としてのコンセプトは変わることなく、現在の展示も十分に有効ですので、今年から来年にかけて一人でも多くの方々に訪れていただきたい気持ちに変わりはありません。

なぜならば当ミュージアムの所蔵品は大学のもつ「お宝」であるだけでなく、社会全体の財産ですから高い価値をもっています。当ミュージアムの資料と展示は、戦時遺品としての貴重性と平和創造のための知的情報というインパクトをもつだけでなく、学術的基礎の上に体系的に並べられているのであって、そのメッセージ効果には大変大きいものがあります。「戦争がなければ平和でしょうか」という問いかけで始まる2階の展示室も、大学が造った博物館ならではのものと言っていいでしょう。これには自然科学と人文社会科学の融合研究体としての大学でしか作りあげようのないものでして、なかなかビジュアルに表現しにくい部分もあるものの、それを工夫で乗り越え強いメッセージを發出しています。前のリニューアル時には存在していなかった持続的開発目標（SDGs）に関する展示も、2022年には追加されることではありまじょうが、実はSDGsは2030年には終了するので、ある意味では賞味期限があります。しかし、SDGsも一つの節目とする考え方であるところの機能主義的世界統合の理念は、現在の展示でも通奏低音のように流れていることがわかっていただけないでしょうか。

学生スタッフ 活動記録

私たち2階展示学生スタッフは主に来館者向けの、2階展示室「平和をもとめて」のナビを担当しています。

2階展示室「平和をもとめて」では3つの部屋で構成された平和創造展示室を中心に「戦争がなければ果たして平和であるか」を問い、世界中のさまざまな問題をあげて人間の能力が全面的に花開くことを妨げる要因「暴力」を取り除いていくにはどうすればよいか、またそのために声をあげ活躍する市民の活動を紹介しています。

さらに国際平和ミュージアムのあるここ京都でつづけられる「平和」をはぐくむ営みを展示しており、歴史都市・古都京都だけではなく「もう一つの京都」を府内外問わずたくさんの方に知っていただけるよう紹介をおこなっています。

またナビだけでなく「地球は今」というコーナーを担当しており、日々変化する世界の現状を知っていただくため、毎日学生スタッフが関連する新聞記事を切り抜き、掲示しています。

このほかに実際に活躍されているNGO・NPO団体の方をお呼びして活動内容を紹介いただき、テーマにおける問題解決のために話し合うワークショップの開催・運営を行ったり、学生スタッフ同士だけではなくボランティアガイドの皆さんとの交流会やナビ講習会をおこなっています。

学生スタッフから、世界や日本の平和に関する記念日を集めた平和カレンダーを作成し、その日に来館された方に記念日に関するナビができればより身近に平和を感じていただけるのではないかとというアイデアを形にするため、新たな企画がはじまりました。カレンダー作成の具体的な内容を相談していく中で、平和創造展示室内に京都に関する

2階展示学生スタッフ編

る展示があり、遠方から来館される方も多くいらっしゃるため、大文字山の送り火など京都の行事とあわせて掲載すれば、より身近に感じ学習していただけるのではないかとという提案があり、そちらも同時に検討しています。現在、協力しつつカレンダー作成に向けて取り組んでいます。

このように私たち2階展示学生スタッフは2階展示の受付や利用者サポートだけではなく、来館される方々が少しでも「平和」について考えていただくきっかけとなるように、また自分自身の学びのきっかけとするべく日々さまざまなことに興味関心を持ち、挑戦しています。

今後も国際平和ミュージアムの一員として貢献できるような、また自らの成長につなげられるようさまざまな事に取り組んでいきたいと思えます。
(学生スタッフ：K)



ボランティアガイドコラム

ドイツに留学した日本の高校生が交流会に参加した時のこと。「ヤスクニにエーキュウセンパンがごうしされていることについてどう思う?」と尋ねられた。日本の高校生はキョトンとして「ヤスクニって何?」「エーキュってフォーエバーのこと?」と聞き返した。ドイツの高校生の間で「これは大変!」と騒ぎになったという。

そんな話を来館した立命館大学の学生に紹介したところ「それって僕です!」と返って来た。彼が当人だったわけでは無かろうが似たような体験をしたのだろうか。

戦争裁判のA級、B・C級戦犯についても、一五年戦争についてもほとんど知らない若者が増えている。学校や社会でそれらについて誠実に教えていないことが原因だ。A級戦犯として処刑された人々が、いつの間にか靖国神社に合祀され半ば社会的に復権していることを知っている人はどれだけいるだろうか。高校生や大学生のガイドを担当する時は、B・C級戦犯の中に台湾人や朝鮮人も含まれ死刑になった人もいること、戦後日本国は彼らに対して償ってこなかったことも忘れてはならない事実として伝えたいと思ってきた。「現代の戦争」コーナー、「戦争をふせぐ努力」の中に、ニュルンベルグ裁判についての解説がある。日本が裁かれた極東国際軍事裁判(東京裁判)は別のコーナーなのでちょっと引き返して説明することになる。それらを受けて、戦争を防止するために常設の裁判所(国際司法裁判所、国際刑事裁判所)がおかれていることにも言及することにしているが、大抵時間切れになって十分意を尽くせないことが多い。

100年前、世界中を巻き込んで戦われた第一次世界大戦後、世界は初めて戦争を「非合法」化した。第二次世界大戦後は国際連合が世界の平和と人権を守るために活動している。私たちの国の憲法も、そうした流れの中で生まれ、世界平和の一翼を担ってきたことを誇らかに伝えたいと思っている。2階の展示場には「ハーグ世界市民平和会議」(1999年)の提言第一に「各国議会は日本国憲法9条のような、政府が戦争をすることを禁止する決議を採択するべきである」と発表したことが紹介されている。

高校や大学を卒業していく若者の進路として、企業だけでなく、「世界の平和と人権を守るために働ける場」がもっとももっとたくさん提示されることを願っている。国際化の中で鍛えられた若者たちはきっと期待に応えた活動してくれるに違いない。
(ボランティアガイド：松田愛子)



これからの展示予定

特別展 世界報道写真展2019 —WORLD PRESS PHOTO 19—

会期 9月23日(月)・(祝)～10月5日(土) 滋賀 (立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポックホール)
10月7日(月) ～10月31日(木) 京都 (立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール)



展示内容 世界報道写真財団(本部：オランダ)が毎年開催している「世界報道写真コンテスト」入賞作品で構成する世界規模の写真展。
※会期中、関連企画を開催します。詳細はHP、Twitterをご覧ください。

世界報道写真展2019 ジョン・ムーア、ゲッティイメージズ
タイトル：国境で泣き叫ぶ少女

6月12日、米国テキサス州マッカレンで、母親サンドラ・サンチェスが国境監視員の取り調べを受けている間泣き叫ぶホンジュラスの子どもヤネラ。

※「世界報道写真展2019」開催中は、見学資料費は大人500円(個人・団体とも)になります。

教員向け見学説明会のご案内

小学校・中学校の教職員を対象とした「教員向け見学説明会」は、国際平和ミュージアムを平和学習にご活用いただくためのガイダンスです。ぜひこの機会にご参加ください。

会期 7月23日(火)・24日(水)・25日(木) 13:00～15:00
8月19日(月)・20日(火)・21日(水) 13:00～15:00

参加費 無料

対象 当ミュージアムの見学、平和教育への活用等をお考えの小学校・中学校の教職員

内容 1. 安斎育郎名誉館長による平和講義体験
2. 展示見学体験(ボランティアガイド・学生スタッフによる案内例あり)
3. 学芸員による収蔵品・貸出し教材キット紹介
4. 団体見学個別相談会、見学受付

申込方法 6月24日(日)から申込書によりFAXにて受付を開始(先着順、各日20名まで)

※申込書はホームページからダウンロードできます。

第125回ミニ企画展示 「ハンパク1969 —反戦のための万国博—」

会期 7月17日(水)～8月24日(土)

ベトナム反戦運動や日米安全保障条約自動延長反対運動が熱を帯びていた1969年、真夏の大阪で「反戦のための万国博(ハンパク)」が開催されました。

翌年に控えた大阪・千里丘陵での日本万国博覧会(大阪万博)に向けて盛り上がる世相に対して、「人類の平和と解放のために」を掲げ、自らの手で反戦と平和の文化を発信しようと、全国から多くの参加者が集まりました。

平和を訴える新しい文化の拠点を生み出そうとする試みはそれまでにないイベントで、討論会、フォーク集会、映画上映、展示、パフォーマンスなどが5日間に渡って夜通し繰り広げられました。本展では、開催に向けた呼びかけ記事、会場リアルタイムに発行された「日刊ハンパク」、会場の様子を捉えた貴重な写真などを通して、ハンパクを振り返ります。

会場：立命館大学国際平和ミュージアム2階 常設展示室内

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

企画：平和教育研究センタープロジェクト研究

「博物館の資料研究〈戦後社会セクション〉」



ハンパク会場風景(1969年 倉田光一撮影)

遊心雑記

お地蔵さんの頭

安齋 育郎 (国際平和ミュージアム名誉館長)

放射能の専門家として、福島原発事故から8年余りたった今も、相変わらず毎月の福島通いを続けています。調査は2019年5月で60回目を迎えました。

5月31日は福島市内のある保育園の要請で、瑞龍寺というお寺の境内への4歳児の散歩コースの放射線環境を見立てました。自然に足腰の鍛錬になる適度な坂道、季節に応じた花や虫との出会い、お地蔵さんやさまざまな墓標との遭遇、道路の利用についての社会的ルールの学習など、豊かな体験要素を含む散歩コースです。

放射線防護学的には懸念するような問題はありませんでしたが、瑞龍寺の境内で出会ったお地蔵さん(写真参照)は、事情を知っている私には「あっ、ここもか!」という感じでしたが、子どもたちは「えっ、なんで?」という違和感をもったかもしれません。

頭だけが真新しいお地蔵さんがずらりと並んでいる姿はちょっと異様ですが、言うまでもなくこれは、神道国教化政策をとった明治政府が「神仏分離令」を発したことに伴って起こった「廃仏毀釈運動」の傷痕です。1868年(明治元年)、国家神道を政策の中心にすえた明治政府は、「王政復古」や「祭政一致」の理想を実現するとして、それまで1000年以上も行なわれていた「神仏習合」を厳しく禁止しました。「神仏習合」は日本土着の

神道と仏教が一つの信仰体系として再構成された宗教現象で、福島の調査先の民家でも神棚と仏壇が違和感なく共存していることも珍しくありません。

以前、「Peace: A Shinto Perspective」(平和: 神道の見方)という論文を書いたことがありましたが、この中でも「神仏習合」について紹介し、「日本の八百万の神々は、実は、さまざまな仏が化身として日本の地に現れたものである」という「本地垂迹」(ほんじすいじゃく)の考え方についても紹介しました。イギリスの平和博物館関係者からの反応によると、海外の読者は大変興味をもったようでした。

「神仏分離令」は仏教を排斥することを目的としたものではありませんでしたが、全国各地で「廃仏毀釈運動」が起こり、寺院や仏像の破壊が行なわれました。その背景には神官や国学者による民衆扇動がありました。多くの価値のある仏教文化が失われました。4歳児にはそんな歴史について伝えるのは難しいでしょうか?



福島市の来迎山瑞龍寺境内の地蔵



ミュージアムのホームページをリニューアルしました!

2019年4月から当館のホームページをリニューアルしました。展示予定、開館日程、館内案内、団体見学申込などをわかりやすく紹介しています。ぜひ来館の参考にしてください。

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

2019年度(2019年4月1日)より

休館日が月曜日から日曜日になりました。

学校単位でのご見学等、月曜日にご予定いただくことが可能になりました。

従来どおり祝日の翌日は休館です。

■ミュージアム概要■

開館時間: 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日: 日曜日及び、祝日の翌日(日曜日が祝日の場合は開館、翌日が休館)

年末年始・年度末の大学が定める休館日 ※詳細はHPでご確認ください。

見学資料費(入館料): 大人400円(350円)、中・高生300円(250円)、

小学生200円(150円)()内は20名以上の団体料金

立命館大学国際平和ミュージアムだより



第27巻 第1号(通巻77号) 2019年6月30日発行

編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL: 075-465-8151 / FAX: 075-465-7899

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

